



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

### サウジアラビア：サ우드外相とナイーミ石油鉱物資源相の中東情勢についての発言 (5月16日付国営通信)

共同記者会見では、ブッシュ米大統領のサウジ訪問（16日-17日）、レバノン、イラク情勢などを取り上げている。

1. アブドゥラー国王とブッシュ米大統領は、首脳会談で「石油施設等の防護のための技術協力協定」、「核及びその他エネルギー分野における協力覚書」への署名が行われた。また、両国は、近く締結される見込みの「科学技術協力協定」の草案に関する協議の完遂に関わる外交文書を取り交わした。
2. サウジはイスラエル議会におけるブッシュ大統領のスピーチを、関心を持って見守った。我々は皆、米・イスラエル間の特別な関係を承知しているが、しかし、国際法及び関連諸決議のもと、パレスチナ人の歴史的かつ政治的権利があることを強調することも重要である。イスラエルの入植地拡大政策、パレスチナ人に対する集団懲罰的政策が和平プロセスの前進の障害となっている。
3. レバノン危機に関しては、アラブ閣僚委員会の危機解決に向けた努力を賞賛する。ベイルート国際空港及び港の再開、全ての道路が通行可能になり、以前の状態に戻ることを希望する。サウジはレバノン憲法及びターイフ合意に基づく諸協定を支持する。また、レバノン憲法の規定、及びコンセンサスを得ているスレイマーン將軍をただちに大統領として選出し、統一内閣を組閣し、選挙法の再検討にとりかかるというアラブ連盟イニシアチブによって一致をみた包括的な解決法を遵守するよう強調する。
4. クウェートで開催された第3回イラク周辺国拡大外相会議の勧告は、イラクの現状を解決するために相応しい枠組を形成すると思われる。
5. 核テロ対策強化のための国際的枠組及び大量破壊兵器拡散防止構想の原則を、サウジは歓迎する。サウジは、核エネルギーの平和的利用は全て、IAEAの基準に従い、その監督下において行われる必要があることを呼びかけていく。